

- ① 地域に誇れる吉田病院  
～名市大シミュレーションセンターとの連携～
- ② ICL S指導者養成
- ③ ワークショップ
- ④ H28年度利用統計  
H29年度利用統計(H30年2月まで)  
交通案内・利用方法 など



愛知県地域医療再生計画により設立された、名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターは、新生児医療、周産期医療、救急医療の3領域の研修を通じて地域の医療安全の確保とチーム医療の向上を目指します。

### 地域に誇れる吉田病院

～名市大シミュレーションセンターとの連携～

吉田病院は千種区大久手にある二次救急指定病院です。「地域医療に貢献できる救急医療と介護を目指して」という理念のもと様々な患者様を受け入れています。

救急指定病院として心肺蘇生処置に必要なBLSやICLSは病院全体で積極的に取り組んでいることのひとつです。名古屋市立大学病院シミュレーションセンターで開催されている桜山ICLSやAHAのコースを通して吉田病院の職員が充実した内容の指導を受けさせて頂いています。多くの職員は受講後もタスクやインストラクターとして引き続きコースに参加して勉強しています。現在、吉田病院はAHA・BLS 10名、ACLS 4名、ICLS 10名の医師・看護師・理学療法士がインストラクターとして活動しています。院内ではBLSは1回/月、ICLSは2回/年を定期的に開催しています。大久手ICLSとして吉田病院で開催しているコースは、当初受講生は院内職員だけの1ブース6名でしたが、院内インストラクターも充実し、数年前より2ブース12名に増やし外部からの医師・看護師の受講も受け入れることが出来るようになりました。これまで大久手ICLSは18回開催し、受講生は114名にもなりました。

蘇生に関わる研修に継続的に参加し学んでいる職員が多くいることや、今までも吉田病院は様々な患者様を受け入れてきたのだから心肺停止患者も受け入れよう、という考えからH21年より心肺停止患者も受け入れることにしました。院内心肺停止の患者とは異なり情報量が少ない中でも蘇生にあたる職員は落ち着いて適切な対応を行うことが出来ています。これは経験などもありますが、

定期的に行っている院内の講習会で病院全体が蘇生に対する共通した認識が高いことや多くの職員が桜山ICLSやAHA講習会で継続的なシミュレーショントレーニングに参加させて頂いているからであるということを実感しています。またこのような機会があることに感謝しています。今後も地域の方々が安心して日常生活が送って頂けるように吉田病院だから出来る地域医療の役割を果たしていきたいと考えています。



吉田病院



受講者とインストラクターの方々前列（右端吉田病院長）



増田 和彦先生  
江南厚生病院救急部

## ICLS指導者養成ワークショップ

名市大臨床シミュレーションセンターで開催されている「江南厚生・桜山ICLS講習会」において、指導的役割を担うICLSインストラクター（日本救急医学会認定）になるためには、ICLS指導者養成ワークショップの受講が義務付けられています。

当シミュレーションセンターでは、本ワークショップを平成25年4月に第1回目を開催し、今日まで計14回開催してきました（表1）。このワークショップのコースディレクターである竹内昭憲先生（元名古屋市立大学病院救急部部長で、現在は、江南厚生病院の副院長兼救命救急センター長）のご指導のもと、桜山ICLS講習会のベテランICLSインストラクター達が、受講生に対してICLS講習会のインストラクション方法について指導にあたっています。平成29年11月5日には、これまでの実績が奏功し、名古屋大学医学部附属病院においても同様に、本ワークショップを開催することができました。

ところで近年、主にビジネスやスポーツの世界において、「コーチング」の手法が取り入れられていることをご存知の方も多いと思いますが、最近のICLS講習会においても、まさにこれと似た手法が取り入れられつつあります。解釈は多数存在しますが、「コーチング」とは、「相手に質問しながら、その人の潜在能力や問題の解決策を自主的に引き出し、人材開発を進める技術」だと言われています（日本大百科全書から引用）。

従来のICLS講習会では、受講生6人が蘇生チームとなり、インストラクターが提示したシナリオに基づいて蘇生のシミュレーション実習を行い、実習後に、改善すべき点について、インストラクターが受講生へ一方的に「ティーチング」していました。現在は、「デブリーフィング（振り返り）」を用いたディスカッションが成人教育に効果的とされており、実習後に、受講生同士で個人レベルとチームレベルのパフォーマンスについて議論することで、双方向的な「気づき」を促し、ミスを確認し、次回のパフォーマンスを向上させるためにはどうしたらよいか、その改善策を考えることができるようにインストラクターが「ファシリテート」することが重要であると言われています。

今後も、このワークショップの発展のため、我々が考える良きインストラクションの実践に添い、コーチングのような新たな概念を柔軟に取り入れながら、より洗練させていきたいと考えています。



表1 江南厚生病院・桜山ICLS指導者養成ワークショップの第1回～第14回の受講者数と属性

表1-1.日程及び受講者数

回	日程	受講者数
第1回	2013/04/20	14
第2回	2013/08/17	14
第3回	2013/11/10	27
第4回	2014/07/27	26
第5回	2014/10/04	6
第6回	2015/01/17	14
第7回	2015/07/26	11
第8回	2015/10/10	14
第9回	2016/02/28	16
第10回	2016/08/07	16
第11回	2016/10/16	16
第12回	2017/02/19	30
第13回	2017/02/19	24
第14回	2017/10/15	23
受講者数合計		251

表1-2.第1回～第14回の職種別受講者合計数

名市大職員	人数
医師	3
看護師	9
他施設	
救急隊員	13
市大以外の医学生	3
市大以外の看護学生	2
市大以外の教員	1
医師	47
研修医	10
看護師	134
助産師	1
臨床工学士	9
理学療法士	7
放射線技師	7
臨床検査技師	2
薬剤師	2
介護福祉士	1
受講者数合計	251

さて、我々が開催してきた本ワークショッププログラム（表3）では、ICLSインストラクターを目指す受講生に対して、

- 1 ガニエの9教授事象（表2）を意識した気道管理方法や、モニター付き除細動器の使い方についてのインストラクション方法
- 2 インストラクショナル・カリキュラムマッピングを用いた、シミュレーション実習を行うための体系的かつポイントを絞ったシナリオ作成方法
- 3 シナリオに基づく蘇生のシミュレーション実習に対して、インストラクター役、受講生役に振り分けてロールプレイを行い、終了後にGAS法、+/ $\Delta$ 法を用いたデブリーフィングを行う方法

この3つを中心に学び、理解してもらうことを目標にしています。

本ワークショップの内容は、ICLSインストラクターになるためのものだけでなく、例えば、職場においてシミュレーション教育を行ったり、同僚や後輩を指導する際にも役立つ内容となっておりますので、ぜひとも多くの医療従事者の方々に、受講していただきたいと考えています。

表2 ガニエの9教授事象

- ① 学習者の注意を獲得する
- ② 授業の目標を知らせる
- ③ 以前学んだ内容を思い出させる
- ④ 新しい事項（教材）を提示する
- ⑤ 学習の指針を与える
- ⑥ 練習の機会をつくる
- ⑦ フィードバックを与える
- ⑧ 学習の成果を評価する
- ⑨ 保持と移転を高める



表3 江南厚生病院・桜山ICLS指導者養成ワークショップのプログラム

内 容	開始時刻	所要時間(分)
受付	8:00	15
あいさつ、オリエンテーション	8:15	10
I. ICLSコースにおけるインストラクターの種類と役割	8:25	30
II. 成人教育		
III. 教育心理学		
IV. コミュニケーションスキル		
1 演習（グループワーク）	8:55	60
	休憩	9:55
	10:05	5
V. 計画と準備		
1 演習（レサシアンシミュレーター操作実習）	10:10	45
	休憩	10:55
	11:05	10
VI. スキルステーション		
1 演習（ロールプレイ）	11:15	65
	昼食	12:20
	13:10	10
VII. シナリオ		
1 演習（グループワーク）	13:20	50
	休憩	14:10
	14:20	25
VIII. プレゼンテーション、フィードバックとデブリーフィング		
1 演習（ロールプレイ）	14:45	125
	休憩	16:50
	17:00	10
IX. その他		
終了式	17:10	20

## 平成 28 年度 センター利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全体	2,210	1,454	1,287	1,235	736	847	1,191	1,259	1,433	719	619	744	13,734
うち学外	162	254	512	370	140	382	495	604	635	229	189	247	4,219
利用件数	68	50	63	56	30	44	69	64	62	43	47	30	626

## 平成 29 年度 センター利用者数 (H30 年 2 月までの利用者数)

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全体	1,606	1,254	1,236	1,026	647	1,190	1,425	1,154	1,441	596	773	—	12,748
うち学外	138	165	440	221	214	419	691	709	587	122	452	—	4,158
利用件数	62	53	63	58	27	62	71	73	56	40	43	—	608

## 編集後記

地域の医療安全の確保とチーム医療の向上を目指し、多くのグループが、7年目を迎える当センターを利用して活動して頂いています。中でもICLS講習会は、地域に密着して開催され、指導者・受講者共に成長していくことのできる場を提供している貴重な講習会です。

ICLSとはimmediate cardiac life supportの略で、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。多くの医療従事者が学ぶことで、急変患者さんが適切に処置を受けることに結びついていると確信しています。

桜山ICLS講習会は、増田和彦先生が名市大から江南厚生病院救急部に勤務が変わったこともあり、江南厚生・桜山ICLS講習会と名称が変更になりました。江南厚生病院副院長の竹内昭憲先生をはじめとする、設立メンバーである、吉田病院のスタッフを含む多くの方々の熱い想いをもとに、日々進化しながら継続されていることに敬意を表したいと存じます。

厚生省が5疾患5事業として、国の重要な事業として定めているものの4つである、救急医療、災害時における医療、周産期医療、小児医療に関わる医療の講習会が積極的に開催されているのは、皆様の不断の創意工夫が魅力的な講習会の開催に結びついた賜物と感謝いたします。

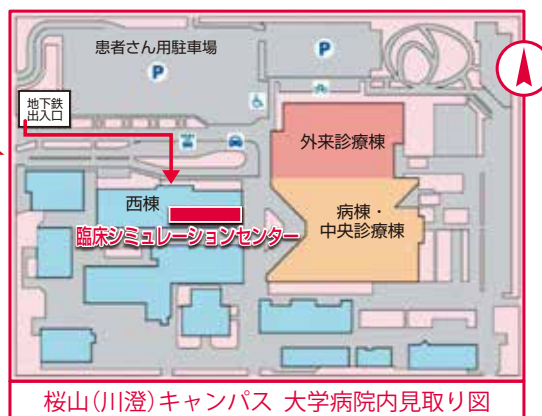
笹野 寛(臨床シミュレーションセンターセンター長)

## 交通案内

### 名古屋市立大学病院 西棟 1 階

#### [ 交通機関 ]

- ・地下鉄 桜通線「桜山」駅下車 3番出口
- ・市バス 金山7番のりばより金山1 2「市立大学病院」下車  
金山8番のりばより金山1 4「市立大学病院」下車  
(一般用駐車場がありませんので、公共交通機関でお越し下さい)



桜山(川澄)キャンパス 大学病院内見取り図

## 利用方法

- ・ホームページ(URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>)より**利用申請書・不動産一時貸付申請書**をダウンロードしてFAX、郵送または受付まで持参していただきますと、センターで利用許可証を発行します。
- ・使用予定日の6ヶ月前の月の最初の平日よりお申し込みいただけます。
- ・特にセンターの設立目的に合った利用のみは6か月以上先の予約でも受け付けます。従って、第1受付日でも既にお申し込みいただけない日ができる場合がございます。ご注意ください。最新の施設空き状況は、お電話にてお問い合わせください。
- ・使用目的、使用計画などをお知らせいただきセンター設立目的に合わないものは利用をお断りすることがございます。詳しくは、センターホームページをご覧ください。 **センター事務室までお問い合わせください。**
- ・敷地内及び周辺道路における禁煙を実施しています。

### 受付時間

月～金 9時から17時(祝日除く)

vol.11  
(2018.3)

発行：名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンター

電話 052-853-8429 FAX 052-853-8436

E-mail [simncu@med.nagoya-cu.ac.jp](mailto:simncu@med.nagoya-cu.ac.jp) URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>